

都市再生整備計画(第2回変更)

やぎはらえきしゅうへん
八木原駅周辺地区

ぐんま しぶかわ
群馬県 渋川市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	群馬県	市町村名	渋川市	地区名	八木原駅周辺地区	面積	23.6	ha
計画期間	令和4年度	～	令和8年度	交付期間	令和4年度	～	令和8年度	

目標 大目標：JR八木原駅を公共交通軸とした市南部の地域振興及び定住人口の増加並びに鉄道利用者の利便性及び地域の安全性の向上を図ることを目標とする。 目標①：自由通路を整備することにより、JR上越線で分断された駅東西市街地の一体性を高め、住民の利便性の向上を図る。 目標②：東側駅前広場を整備し自由通路で西側と連絡することにより、従来、西側のみに集中していた駅利用者の送迎車を分散させ、交通渋滞を緩和させると共に交通利便性の向上を図る。 目標③：西側駅前広場にロータリーを整備し、バスの乗り入れを可能にすることにより、交通結節機能など交通利便性の向上を図る。 目標④：高齢化社会等に対応したバリアフリーの推進及び安全で快適な歩行空間等の整備による都市環境の充実を図る。
目標設定の根拠 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) JR八木原駅周辺整備では、JR八木原駅を公共交通軸とした市南部の地域振興及び定住人口の増加並びに鉄道利用者の利便性及び地域の安全性の向上を図ることを目的とし、自由通路(駅舎と一体整備)、東西駅前広場(ロータリー、駐車場、駐輪場等)、東側アクセス道路を整備箇所としている。
まちづくりの経緯及び現況 渋川市では、本地域も含まれる市の南部地域において、人口がほぼ横ばいで推移していることから、適正な土地利用を促し開発を誘導することにより、地域振興及び定住人口の増加を図るため、平成26年10月22日に渋川市南部地域振興に係る事業方針を決定した。この事業方針により、本地区は都市部へつながり、隣接する町の生活圏も含まれるなど、有効な公共交通機関を有することから、重点整備地区として位置づけられ、整備を検討してきた。 平成30年度には、第2次渋川市総合計画を策定し、JR八木原駅周辺整備事業を主要事業として位置付けられ、東側アクセス道路の詳細設計、東側駅前広場の用地調査を行うとともに、自由通路、駅舎及び東西駅前広場の基本計画を作成し、東日本旅客鉄道㈱と基本協定締結に向けた協議を開始した。令和2年度には、渋川市都市計画マスタープランの改定や、渋川市公共交通計画の策定が行われ、交通結節点としての八木原駅などの都市基盤の機能強化を施策として位置付け、令和3年度には、渋川市立地適正化計画を策定し、本地区は居住誘導地域が設定され、「ライフスタイルに合わせたおでかけ環境の整ったまち」として、交通結節点の利便性の向上を図るために八木原駅周辺の駐車場整備や機能強化、自由通路整備を誘導施策として位置づける予定であるほか、東日本旅客鉄道㈱と「上越線八木原駅自由通路及び駅舎整備基本設計その他作業に係る協定」を締結するなど、事業を推進しているところである。
課題 ■JR上越線により駅東西の市街地が分断しているため、本地区に一体感がない。また、東西を横断できる箇所が少なく、歩行時間がかかるなど利便性が悪い。 ■駅の改札が西口のみで、駅東側からの利便性が悪い。さらに、駅西側が県道に面しており、駅利用者の送迎車により交通渋滞が発生している。
将来ビジョン(中長期) ■渋川市総合計画 JR八木原駅周辺整備事業を主要事業として位置付けた。 ■公共交通計画 JR八木原駅周辺エリアにおいて、アクセス道路や駅前広場、駐車場の整備を進め、交通結節点としての機能強化を図る。また、八木原駅周辺整備と合わせ、既存路線の八木原駅乗り入れによる公共交通の利便性向上を検討する。 ■渋川市都市計画マスタープラン ①地区別構想における土地利用の配置・誘導方針 本地区は、市南部の生活拠点の形成として、鉄道駅を中心とする公共交通網を軸としたまちづくりを図るために、駅周辺整備の検討を行う。 ②地区別構想における市街地整備の方針 本地区は、市南部の生活拠点としたまちづくりのため基盤整備を進めるなど検討を行う。 ■立地適正化計画(令和3年10月公表予定) 本地区は居住誘導地域に位置づけており、「ライフスタイルに合わせたおでかけ環境の整ったまち」を図るため、公共交通機関利用者の視点に立った複数の交通手段による移動の連続性の強化や、日常生活の中で多くの人々が集い語らう場となる交流機能の拡充により、快適な“つながり空間”と居心地のよい“たまる空間”を形成するため、ランドマークとしての機能を合わせもつ交通結節点の利便性を向上する。

都市構造再編集集中支援事業の計画							
都市機能配置の考え方 立地適正化計画におけるJR八木原駅周辺地区の基本方針では居住誘導区域として設定し、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるようにする。 また、東西自由通路・東西駅前広場の整備を推進し、駅東西のアクセス性の向上を図るとともに交通結節点機能の強化により、JR八木原駅から鉄道を利用してJR渋川駅西側の中心商業地、バスを利用して市道南部幹線沿道の沿道型商業地にアクセスできるようにする。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
踏切通行者の減少	人/12hr	半田街道踏切（JR八木原駅南側に位置する踏切）の歩行者数の減少	自由通路を整備することにより、半田街道踏切の7時から18時に通行する歩行者数が減少する。（交通量調査による）	539	H30	405	R8
定住人口の増加	人	八木原地区内の定住人口の増加	自由通路を整備することにより、土地利用が進み定住人口の増加に繋がる。（住民基本台帳からの推計値）	4137	R2	4168	R8
鉄道利用者の増加	人/日	JR八木原駅の1日平均乗車人員の増加	パークアンドライドの拠点として駐車場を整備し、駅前広場にロータリーを整備することにより、鉄道駅の利便性が向上し、鉄道利用者の増加に繋がる。（1日平均乗車人数実績からの推計値）	1080	R1	1115	R8

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1(駅を中心とした便利で効率的な市街地形成) ・駅東西を一体化させた効率的な市街地形成を図るため、自由通路整備を行う。		【基幹事業】 地域生活基盤施設:自由通路(EV含む) 【関連事業】 市道1-1509号線ほか1路線道路改良事業、市道1-1507号線道路改良事業
整備方針2(交通結節拠点とパークアンドライドの整備) ・駅東側からのアクセスを改善するため、自由通路、駅前広場等を整備する。 ・西側駅前広場には路線バスの停車機能を持たせる。 ・パークアンドライドの拠点として駐車場を整備する。		【基幹事業】 道路:西側駅前広場 地域生活基盤施設:東側駅前広場、駐車場整備、自由通路(EV含む) 【関連事業】 市道1-1509号線ほか1路線道路改良事業、市道1-1507号線道路改良事業 【提案事業】 地域創造支援事業:鉄道駅舎改築(耐震改修・バリアフリー)
整備方針3(歩行者空間等の整備による都市環境の充実) ・安全で快適に利用できる歩行者空間の整備を行う。 ・駅利用者の利便性の向上を図るため、エレベーターの整備を行い、バリアフリー化を促進する。 ・歩行空間の確保と、まちなかの美観の向上に寄与する施設として駐輪場を整備する。		【基幹事業】 道路:西側駅前広場 地域生活基盤施設:東側駅前広場、自転車駐車場整備、自由通路(EV含む) 高質空間形成施設:公衆トイレ(バリアフリー)、シェルター、点字ブロック
その他		
【まちづくりの住民参加】 ・まちづくりは、行政と市民が連携・協力して推進する必要があることから、地元自治会を主体とした「八木原駅周辺整備事業の検討委員会」と継続的に事業の進捗と課題について協議している。		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...B

(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業

[illegible]

(参考) 関連事業

[illegible]

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。

凡 例

- 都市再生整備計画区域
- 居住誘導区域
- 官公庁
- 国道
- 鉄道(JR)